

資料①

# 2 「羽根倉道」って何？ でも、実はいろいろな疑問や問題が



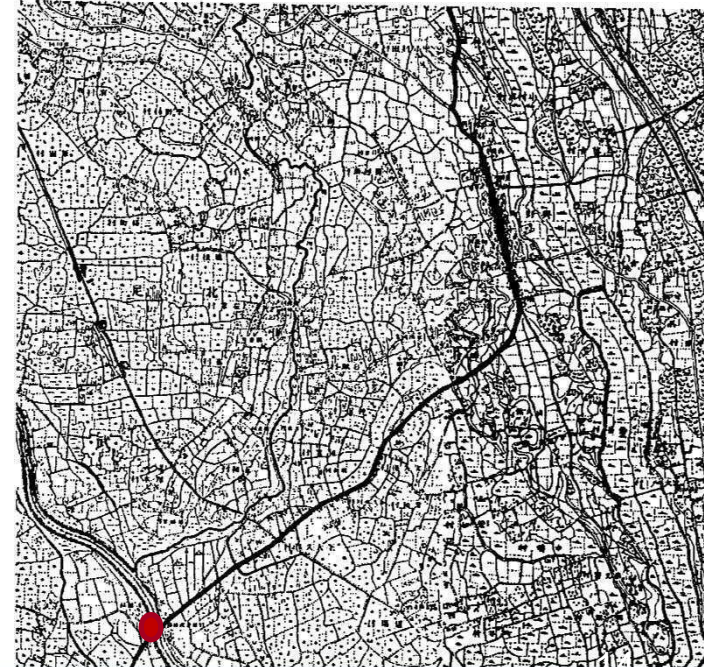
阿部正道氏「鎌倉街道について  
—その分布と遺跡—」  
(『人文地理学の諸問題』1968年)



『浦和市史 通史編1』P401  
(1987年)



主な鎌倉街道伝承経路  
(「埼玉県内鎌倉街道伝承地所在確認調査報告書」をもとに)  
(作成 □ は与野市の所在位置を示す)



『与野市史 通史編 1上巻』P241(1987年)



### 3 「鎌倉街道」って何？

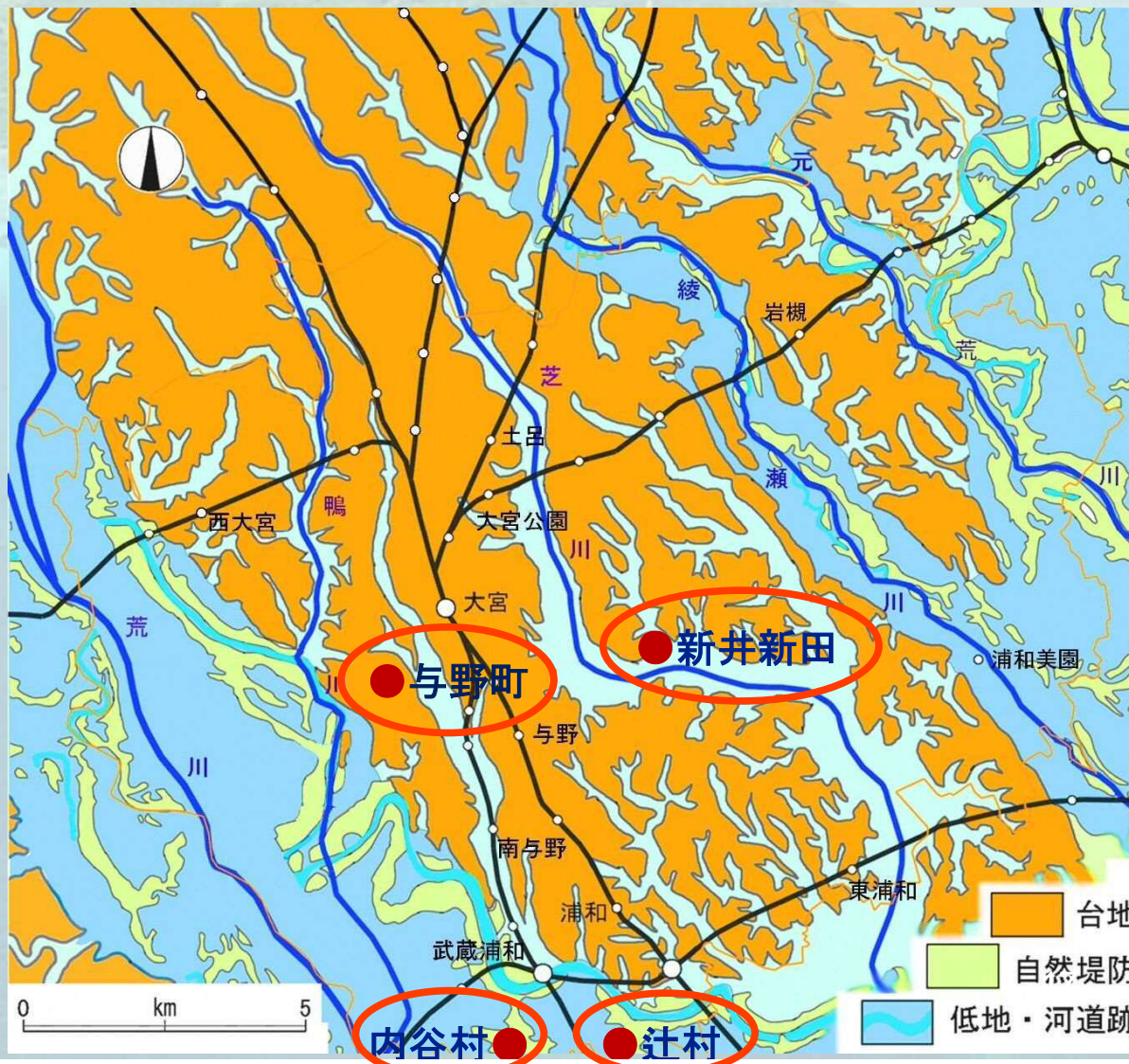
■さいたま市内の「鎌倉街道」～『新編武蔵風土記稿』から

○与野町（中央区本町西・東）・・・相模・甲斐から奥州への往還、「鎌倉海道」

○新井新田（見沼区東新井）・・・小名「鎌倉海道」

○内谷村（南区内谷）・・・「鎌倉古街道」

○辻村（南区辻）・・・「鎌倉街道」の十字路が村名の由来



## 4 「羽根倉道」を考える

### ■「羽根倉道」が登場する史料

#### 『武蔵国郡村誌』

※「羽根倉道」はさいたま市内では4町村に登場

#### 与野町

羽根倉道 町の南にて川越道より岐れ、西方上峯村界に至る。長四町拾間、巾三間。

#### 上峯村

羽根倉道 村の東北与野町界より西南上大久保村界に至る。長五町貳拾八間、巾貳間五尺。

#### 上大久保村

羽根倉道 村の東北上峯村界より東南下大久保村界に至る。長十四町十二間、巾三尺。

#### 下大久保村

羽根倉道 村の東方上大久保村より村の中央を貫き、上大久保村飛地界に至る。長拾五町拾間、巾二間。

➡ 与野町→上峯村→上大久保村→下大久保村・羽根倉渡



## 4 「羽根倉道」を考える

### ■ 荒川(入間川)の西側の史料を見てみると・・・

#### 『新編武蔵風土記稿』

宗岡村(入間郡、現志木市)

(上略)西より東へ一条の小径を通せり。是古え鎌倉より奥州へ往来せし街道なりと云。(中略)

小名 宿 元は此所に市立しが、しばしば水災ありしかば、は郊郡引股町へ移せり。此所は鎌倉より奥州への古街道なしり由。(中略)

羽根倉河岸(ハネクラカシ) 爰も奥州古街道にて、荒川の岸を云。此所は船渡あり。対岸、足立郡下大久保村と当村との持なり。(後略)

※ほかに、上宿、下田屋敷、精進場、佃、馬場等あり

※柳瀬川北岸の水子村・下南畑村(富士見市)にも「奥州(古)街道」の伝えあり。また、坂下村には「鎌倉坂」の小名あり。

## 4 「羽根倉道」を考える

### 『武蔵国郡村誌』

宗岡村（入間郡、現志木市）

#### 字地

（中略）馬場（中略） 下田屋敷（中略） 龍ヶ谷戸宿（中略） 東光寺（中略） 佃（中略） **羽根倉**（中略） 上宿（中略） 沼田道上（中略）

#### 山川

（中略）**羽根倉渡** **与野道**に属し、村の東方荒川の上流にあり。渡船一艘、私渡。（中略）

#### 道路

**引又道** 村の東北**羽根倉渡船場**より、西方志木宿界に至る。長二十三町三十四間、巾二間。（後略）

※同じ道に向かう方向によって、「与野道」と「引又道」と呼び分けている

## 4 「羽根倉道」を考える

### 「羽根倉道」の呼び名は・・・

羽根倉渡船場(河岸も)の周辺において、交通上の重要施設(インフラ)である羽根倉渡に通じる道として「羽根倉道」と呼んだ

➡羽根倉渡周辺地域における地域名

ではなぜ、「鎌倉街道」の路線名に？

埼玉教育委員会(県立歴史資料館)の鎌倉街道伝承地調査

★『県内鎌倉街道伝承地所在確認調査報告書』1982年

・伝承地・古道を図示

・「中道」(奥州道)・「上道」(上野・信濃・越後本道)と並んで、「羽根倉道」を立項

➡重要性が想定される古道筋に、地域名「羽根倉道」をを設定＝学術上の概念(用語)→地域史研究に影響



# おわりに ～豊臣秀吉も通ったかもしれない道～

## ➡岩付から府中に向かう

秀吉は、羽根倉で荒川を渡った可能性が高い

- ・北条氏の段階で、府中—清戸（清瀬市）—岩付が重要な幹線道路になっていた

秀吉の会津からの帰途、短期間での道路整備が可能だったのは既存の道を活用したから

翌天正19年には、奥州再仕置に向かう豊臣秀次の大軍もこの道を通り

## ➡豊臣政権の全国統治の幹線道

